

国際社会学部

日下 渉

Kusaka, Wataru

地域社会コース／東南アジア

政治学、文化人類学、フィリピン地域研究



フィリピンの魅力とは

私は大学生の時に、フィリピンの農村で簡単な水道や道路を建設するワークキャンプ活動に参加して以来、この国と人びとに魅了されてきました。私にとってフィリピンの魅力は、国や国民の成り立ちに痛みと欠落を抱えいて、望ましい自己を未だ実現しておらず不完全だからこそ、うまく生きれなかったり、困難に陥った者にも優しく、よりよき未来を作っていくための勇気やアイデアを与えてくれるところです。フィリピンは現代社会の困難な諸課題に対して、最先端で苦しみながら取り組んできました。私たちはフィリピンの試行錯誤から、いかにより善く生き、より良い社会を作っていけるかについて多くを学ぶことができます。

研究紹介

政治学・文化人類学・社会学などにまたがる学際的なアプローチで、フィリピン地域研究をしています。とりわけ、草の根のフィールドワークで現地の人びとの生活や価値観を内在的に理解し、そこから民主主義、不平等、社会秩序といった大きな問題について考えてきました。

これまでの仕事では、スラム住民、露天商、ハンセン病患者、性的マイノリティ、災害被災者、麻薬使用者といった周縁化されてきた人びとを取り上げてきました。自分とは異なる境遇を生きる人びとを深く理解しようとすることで、世界がまったく違うように見えてくるからです。そして、そうした彼らの経験や視点から、既存の社会秩序や政治を批判的に分析し、新たな社会や政治の可能性について考えてきました。

その他にも、フィリピンを丸ごと理解すべく、選挙、外交、司法、地方政治、暴力、都市、学生ボランティア、在日フィリピン人、妖怪など、様々なテーマについて文章を書いてきました。

研究を通じて、日本社会にもフィリピン社会にも、既存の政治や社会をより批判的に、より豊かに見ることができるような契機を提供していきたいと思っています。



担当授業

- 東南アジア地域基礎
- 東南アジア地域研究
- フィリピン語講読
- 卒業論文演習
- 東南アジア地域研究演習

関連する分野

- 政治学
- 文化人類学
- 社会学
- 地域研究

出版物

- 『反市民の政治学：フィリピンの民主主義と道徳』
- *Moral Politics in the Philippines: Democracy, Inequality and the Urban Poor*
- 『承認欲望の社会変革：ワークキャンプにみる若者の連帯技法』
- 『フィリピンを知るための64章』
- 『21世紀東南アジアの強権政治：「ストロングマン」時代の到来』
- 『東南アジアと「LGBT」の政治：性的少数者をめぐって何が争われているのか』
- 『現代フィリピンの地殻変動：新自由主義の深化・政治制度の近代化・親密性の歪み』

国際社会学部

東南アジア地域研究ゼミ



どのようなゼミか

地域研究のテーマは「何でもあり」で、自分にとって切実で重要なことを学術的に追及していくことができます。たとえば好きな趣味、社会や政治の理不尽さに対する怒り、自らのアイデンティティの模索、異なる境遇を生きる他者などさまざまな関心から、研究テーマを決めていきます。そして、そうした個々の関心を東南アジア地域研究のなかに位置付けて深く検討することで、世界をより豊かに見られるようにする知的なレンズを獲得できるようになります。

「内在的理解」と「複眼的視座」

地域研究の魅力は、異なる社会、文化、人びとを外側から眺めるだけではなく、内側から内在的に理解しようとすることで、世界を視る複数の視座を得ることができることです。

私たちは、自分の生まれ育った環境のなかで、知らず知らずのうちに特定の考え方を「常識」として身に着け、既存のルールを盲目的に従うようになっていきます。しかし、異世界に飛び出すと、自分の知っていた世界がいかに狭かったのかを痛感し、既存の「常識」や「ルール」の束縛から自由になり、より自由に考えて、行動することができるようになります。これは、とりもなおさず、自分自身と社会を新しく作り直して、より善き生を追求したり、新たな社会秩序を構想していく可能性が開かれることに他なりません。

世界は私たちが知っているよりも、ずっと豊かで、優しく、楽しいです。そんな知的な解放と快感の契機を、地域研究を通じてゼミ生と一緒に追及していきたいと思っています。

卒論

- 2022年開講なので、まだ卒論は出ていません。

おススメの本

- ジェームズ・C. スコット『実践 日々のアナキズム：世界に抗う土着の秩序の作り方』
- ベネディクト・アンダーソン『越境を生きる：ベネディクト・アンダーソン回想録』
- レイナルド・イレート『キリスト受難詩と革命：1840～1910年のフィリピン民衆運動』
- 清水展『文化のなかの政治：フィリピン「二月革命」の物語』

東南アジア地域研究ゼミは、政治・社会・文化・経済などの側面から、フィリピンをはじめとする東南アジア地域の「おもしろさ」を学ぶゼミです。例えばフィリピンは、7千を超える島々に多様な民族・言語集団が共生し、さらにアジアで最もジェンダー平等に近い社会であると言われていています。フィリピンは「遅れた発展途上国」ではなく、日本の先を行く「未来国家」だとも言えるのではないのでしょうか。このゼミでは、東南アジアに対する自分の視点を相対化することで、これまで見えなかった「おもしろさ」を見つけることができます。学生の関心に沿った文献を読んだり、映画を見たり…、時々フィールドワークも行います。皆さん、東南アジア地域の「おもしろさ」にぜひ触れてみてください！（劔持彩人 2022年度フィリピン語科卒）